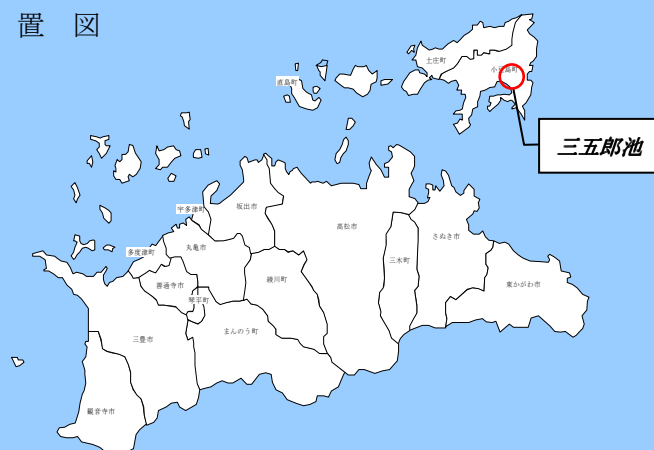


三五郎池 (さんごろういけ)

位置図



諸元

貯水量	85 千m ³
満水面積	1.4 ha
受益面積	12.0 ha
堤高	18.0 m
堤長	150.0 m

三五郎池が築かれる以前は、安田縄手地区の田畑は旧内海町で最古といわれる明暦3年(1657)に築造された縄手池^{なわて}によってかんがいされてきました。縄手池は安田大川の中流から掛井手により水を引き入れた浅い皿池で、貯水量も約1万m³程度と少なく、そのため下流の田畑はかんがい用水の多くを河川の自然流水に頼っており、常に水不足の不安につきまといわれてきました。

近代に入り明治末期に水需要の増大と安定した水源確保のため、三五郎池の築造が発議され、大正5年(1916)に起工し、途中7年間暴風雨被災の苦難を乗り越え、大正13年(1924)に完工をみたのでした。この完成により、8町歩の畑が田に昇格したといわれています。

三五郎池の築造によって、安田縄手地区の水不足の解消はもちろん、新しい水田も誕生し、さらには水不足を訴える隣の木庄地区にも峠にトンネルを掘って送水できるまでになりました。

毎年6月5日にえん堤にある祠^{ほこら}で水神祭が執り行なわれ、関係者による豊作祈願がなされています。

三五郎池は小豆島最高峰の星ヶ城山^{ほしがじょう}の南山腹の風光明媚な地にあり、また昭和56年に三五郎池直下に粟地ダムが築造されたことにより、桜並木のダム周遊道やテニスコート・多目的広場等が一体的に公園として整備されました。近年、ダム周遊道でジョギングをしている住民を多く見かけるようになり、島民の憩いの場としても定着しています。

毎年6月5日に行われる水神祭



三五郎池